

を見れば金がかかることがわかるのですよ。だから、見に行かないでデスクで計算した方が削りやすいのですよ、物をね。私は、やはりこういう行政執行でいいのだろうかというような疑問があるところなのです。そうなので、現場をきちっと見て、直さなければいけないところは、何を削ったってやはり直さなければいけないというふうに思うのです。

先ほど寺島中央公民館長から話がありましたけれども、年次計画でというふうに言われました。そのとおりで私はいいのですよ。しかし、雨漏りしたものを年次計画できますか。そうじゃないでしょう。そこをどうするかというところは私は聞いているのですよ。

もう一つつけ加えて言います。FF式のオイルファンヒーターを交換しましたって。確かに1階にあったものは交換したようでした。私は見てきました。ところが2階に置いてあるやつがあるのですよ。私の背丈ぐらいある大きなヒーターがあるのです。壊れていて暖まらないですね。ファンが回っているのですけれど、冷たい風を送るのですよ。そこは何かというと、調理実習室なのです。調理実習室でそこを使ってするのだけれども、そこしか使いようがないのですね、部屋が。調理実習室ですから。暖房器がないのですよ。部屋を貸してくれと来るのは、部屋があるわけだから貸してくれと来るのです。暖房器がないところで調理実習させるわけにいかないから、何をやったと思いますか。公民館長がみずからのポケットマネーで買って持ってきて置いているのですよ、ここに。市民負担がここに伴ってくるということなのですね。

もっとも、持って帰れるのかどうかわかりません。ただ、あの部屋を暖めるためには、一般家庭でもっているようなFF式のファンヒーター程度では暖まらないですよ。大きなやつでした。うちにもつけてもらったから、い

らなくなったから持って帰れと言われたって、家で使うところは多分私はないのだと思いますよ。わかりませんが。そういうふうなことは、もうちょっと小まめに点検していかないと、社会教育施設なんていうのは、特に教育の部分というのは、金かけたからといってすぐ効果が出ないということなんです。時間がたたないと出ないということ。そこをやはり削っていくなんていうのは、極めて問題なのではないかなというふうに思います。大体、言いたいことはわかっていただけたと思いますので、余りとりいただく部分はないようでありますから、私の質問はこれで終わりたいと思います。

鈴木良雄議長 ここで暫時休憩いたします。

再開は、3時20分といたします。

午後 3時00分 休憩

午後 3時20分 再開

我妻 昇議員の質問

鈴木良雄議長 休憩前に復し、会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

順位11番、議席番号1番、我妻 昇議員。

(1番我妻 昇議員登壇)(拍手)

1番 我妻 昇議員 ようやく私の出番がきたという感じでございます。

先月、会派の視察におきましては、太田市と志木市というところに行ってまいりました。先進地というのは、まさにこのことだと深く感銘を受けた次第でございます。蒲生光男議員が、昨日大きく触れていらっしやいましたので、私は、一部小さく触れていきたいと

思います。また、その後に青梅市にも表敬訪問をいたしました。青梅市には日本ケミコンの本社工場があるということを初めて知りまして、長井市とは深くつながりがあるのだなと。今後も表敬訪問を続けていかなければという思いをした次第でございます。

さて、質問でございますけれども、私は、昨年の9月議会一般質問におきまして、長井市の広報・宣伝、あるいは観光PRなどが、まだまだ不十分であると指摘をさせていただきました。花火大会が新聞に載らないという例を挙げまして、委託してしまえばそれっきりになっていないか、マスコミが長井市の情報をどう扱っているかをチェックしていないのではないか、広報やPRというものについて、横の連絡、つまり各課の連絡をとっていないのではないか、またはこれからはとってほしいというような発言をいたしました。

加えて、勤労センターの職員は、利用者をふやすために、長井市にある全部のコンビニを回り、広報誌を置かせてくださいと頭を下げて回って歩いたこと。そして、その結果、利用者が大幅にふえたという事実も紹介をいたしました。コンビニやガソリンスタンドというものは、市民はもとよりでございます、市外、県外の方々が数多く利用していると思います。観光PRには最適の場所であり、すぐにでも回ってほしいということもお願いしたように思います。これは12月議会でも高橋孝夫議員が同じく指摘していらっしゃいました。9月議会、12月議会を受けてか、それとも以前から計画していたはわかりませんが、商工観光課で早速コンビニ、ガソリンスタンドなどを回っていただいたようです。これは小さな行動かもしれませんが、大いに評価できる行動だと私は思います。

先ほどの大道寺議員の行政評価システムについて、さまざまなお話がありましたが、それ

が実現したとしても、この行動は市民満足度大というようなことではないでしょうか。観光PRの効果はもちろんでございますが、職員がコンビニを回っている、頭を下げているという姿を見れば、あるいはそういうことをしているということを聞けば、市民はどう思うでしょう。もしかすると、観光PRというよりも、市民に対する効果の方が高いのではないかと私は思います。

そうした行動に、私は心から敬意を表します。また同時に、私自身、まだまだ具体的に努力をしていかなければいけないと、刺激を受けたところでもあります。

そこで、商工観光課長にお尋ねをいたします。観光パンフレットや市内案内図などの設置依頼の今の状況、または課題、そしてその反応、さらには、今後それらをどう活用していくのかなどをぜひお聞かせいただきたいと思えます。

次に、市報について伺います。3月の補正予算で、市報の印刷費が300万円もの大幅減になっておりました。その大きな要因は、DTPシステムの導入という説明でありました。5年リースで総額約300万円の契約です。システムを導入していない5年間と比較した場合、1,200万円の経費削減となるわけですから、大変素晴らしいシステムの導入だと思います。

そこで総務課長に質問です。そのシステム導入の経緯やねらい、入札方法などをお聞かせいただきたいと思えます。また、とてもすぐれたシステムですので、他の広報誌にも活用できないものか。もしそれが可能ならば、議会だよりなどにも活用し、市報と一緒に1冊として発行できないものか、それも含めてお聞かせ願いたいと思えます。

次の質問はさらに細かいことで大変恐縮なんですけれども、市の封筒印刷費削減についてです。

+

群馬県太田市においては、封筒印刷費はほとんどかかっていないそうです。それどころか、プラスになるということもあるそうです。なぜならば、市内企業と広告契約を結んで、封筒にその広告を印刷すると。そのことで印刷経費を削減しているということです。

長井市は、第四次基本構想で市民との協働を大きくうたっております。この事例はまさに市民との信頼関係に基づく、協働ではないでしょうか。

市内企業にとっては、全国や世界を相手にして活躍しているところもあります。その広告が、職員が、あるいは議員が視察や陳情のたびに、または郵送でも、いろいろなところに封筒が出回ること、とてもメリットのあることではないでしょうか。

市長、現在封筒印刷にはどの程度の経費がかかっておりますか。その経費を削減する意味でも、市民との協働という意味においても、広告掲載を検討してみたいかでしょうか。

最後に、旧郡役所についての質問です。先日、3月3日、旧郡役所現地を見学させていただきました。工事の真っ最中でありましたが、私はそれを見て、将来この文教の杜を含めたその周辺一円が、市民に愛され、より使いやすい場所になってほしいなと心から思いました。その思いは私だけではないと思います。

今回上程されている議案第23号は、旧郡役所の利用が午後4時30分までとなっており、市民にとっては使いづらい施設になるのではないかと心配をしております。

そこで教育長に伺います。この条例制定の意図と、それにより市民にとって不都合が生じないかお聞きしたいと思います。先ほど藤原議員も、私よりも上手に質問をされ、また詳しく答弁をされていたので、重複しないように簡単に結構です。お答えをいただきたいと思います。

また、建設課長に伺いますが、「美し国置賜」創造事業、これは旧郡役所周辺を整備するためのワークショップ事業などをするという説明でございました。その概要とねらい、また今後どのようにそのワークショップを形にしていくのか。単年度なのか、継続なのかも含めてお聞きしたいと思います。

以上、壇上からの質問を終わります。ご清聴ありがとうございます。（拍手）

鈴木良雄議長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 我妻議員にお答えをします。

印刷費、これは平成14年度つくったのが、角1、角2、長3、長4、特殊を含めて20万5,120枚、270万4,149円でありましたが、15年度は、角1、角2、長3、長4、特殊を含めて15万7,420、229万3,914円。40万ほど減らしました。このISOにのっかって、むだを廃していると思います。

封筒への一般広告の掲載ですが、私法上の契約を、私法上ですね、一般広告を掲載することは可能だと、行政事例の昭和33年8月21日にされておりますが、郵便用の封筒にも一般広告を印刷することについて、3月5日に長井郵便局総務課に照会しましたら、郵便局は、あて名が明確にわかるものであれば可能だということであります。

各課で独自に印刷を発注しているところがありますので、単価が割り高になっているものもまだあるようですから、窓つきなどの特殊封筒以外は統一して、これからも経費を節減を図りたいと。その場合の広告を掲載する、そして広告料をちょうだいするということは、太田市がおやりになっている。どういうふうなのか研究させていただいて、一部企業等の広告を掲載したものを使用することに異論を唱える方もいると思うんだな、やはり。それから、印刷単価と広告料の関係がどうなるかというようなことも、もうそこで異論があり

ますからね。この辺もやはりよく研究してみなければいけないというふうに思います。研究させてください。

以上です。

鈴木良雄議長 那須宗一商工観光課長。

那須宗一商工観光課長 我妻議員のご質問にお答え申し上げます。

コンビニやガソリンスタンドへの設置依頼状況はというご質問でございました。長井には多くの観光客を初め、いろいろな方々がおいでいただいておりますので、ぜひ快くお迎えしたいなというふうに考えているところでございます。

市内の道案内やお食事どころの紹介、あと、観光案内を目的といたしまして、国道沿いのガソリンスタンド、現在のところ5カ所、あと一部の飲食店などにパンフレットの設置は従来から依頼してまいりました。

ただ、昨年我妻議員からもございましたとおり、議会からの大変貴重なご提案をちょうだいいたしましたので、ことしの1月にですが、市内のコンビニエンスストア、15店ございますが、従業員50人以上の企業28社を直接担当の者が訪問いたしまして、総合観光パンフレットと市内の地図を設置といたしますか、置いていただくようお願いしました。その際、特に企業のお客さまについては、県外からいらした方に観光のPRをお願いしたいというようなことで、実はお願いしたところでございます。

どのような効果があったのかという部分につきましては、なかなか今のところわからないわけですが、特にコンビニエンスストアにつきましては、従来から地図をくださいというふうな希望のあったところもございますので、そういったところが全市的に広がれば、またいろいろな効果が出てくるのかなというふうに考えているところでございます。

ことしにつきましては、観光ポスターも市内の全コンビニにお願いしまして、コンビニ側の事情もございまして、どのような形で張っていただくかはわかりませんが、ポスターの設置はお願いしてまいりたいというふうに考えているところでございます。

今後ですが、先ほどありましたとおり、コンビニエンスストアはもとよりですが、ガソリンスタンド、まだ一部にとどまっておりますので、できるだけ多くのガソリンスタンドに地図やパンフレットを置いていただくようお願いしてまいりたいと思っておりますし、市内の企業につきましても、50人以上というふうなことで今回は区切らせていただきましたが、そういったことだけでなく、企業の状況もございまして、その辺も勘案しながら設置をお願いして、観光PRに努めてまいりたいというふうに思っているところでございます。

また、市のホームページにつきましては、祭りのイベント内容を掲載して、広くPRをしていきたいというふうに考えておりますし、県の観光協会のホームページについても、市で直接更新できる部分もございまして、この部分については、先ほど我妻議員のご指摘もございましたが、花火大会のようなことにならないように、できる限りタイムリーに掲載してまいりたいというふうに考えているところでございます。

また、ことしの2月6日なのですが、観光事業を実施しております関係団体にお集まりいただきまして、観光懇談会を実は開催させていただきました。観光客のニーズが非常に多様化しているというふうなこともございますので、市とか観光協会だけでなく、いろいろな立場で観光についてお話をいただくという機会を持たせていただきました。特に16年度以降は、町中散策のような体験型の観光を実

+

施しながら、リピーターによる交流人口の拡大に一層努めてまいりたいというふうを考えておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

鈴木良雄議長 新野義憲総務課長。

新野義憲総務課長 市報のDTP化につきましてお答え申し上げます。

いわゆるデスクトップパブリッシング、机の上での編集、作成というふうな意味でございますが、この導入のねらいでございますけれども、近年、近隣市町でもコンピューターによる編集作業が容易なソフトの開発が進みまして、いわゆる近隣自治体でも、相当広くDTPシステムを導入しております。こういったことから、長井市としても15年度から、いわゆる今年度からこの導入を実施いたしまして、自主的な、いわゆる職員みずからの手作業で編集、校正、そして作成をしているところでございます。

この大きなメリットは、コストの削減と、いわゆる自由自在に編集ができるというふうな点が一番大きなメリットではないかというふうに思っているところでございます。

この機器の契約でございますが、随意契約によりまして、地方自治法施行例の167条2の第2項の規定によって、随意契約でさせていただいております。株式会社メコムさんと随契をさせていただいております。

県内でこのメコムさんのみ、インストラクターを配置をしておりますので、指導を受ける面におきましても、いつでも指導を受けられるというような面から、メコムさんと随契をさせていただいたところでございます。

機器の賃借料でございますが、月額、消費税含めて4万9,350円でございます。ことは導入の初年度でありましたので、5月からの契約ということで11カ月の契約で、15年度は54

万2,850円で契約をしているところでございます。

一番の見込まれるメリットでございますが、コストの削減、それから作業工程の短縮、それから職員、あるいは依頼を受けた方々からのイメージどおりの紙面作成ができるということ。それから、印刷直前まで修正が可能であります。それから、データの二次利用もできます。これがメリットであろうというふうに思います。

一方、デメリットもあるかと思えます。この操作を習熟するのに相当時間がかかります。職員、ことし二人配置をしておりますが、4回ほどの講習を受けて習熟をしたところでございます。それから、多少電子的なトラブルが発生したこともありましたので、こういったデメリットもあるのかなというふうに思っております。それから、ソフトが次々と新しく発売される状況にあります。また、複雑な紙面の入力に時間がかかることもありますので、こういったことがデメリットかなというふうに思います。特に、実際の効果として、職員の能力に大きく影響するかと思えます。いわゆるイメージどおりの広報ができるということは、それだけ職員が習熟度が高まって、初めてよくなる点でございますので、職員の取り組み姿勢、こういったことも大事であろうというふうに思っているところでございます。

今、議員の方からご提起ありました議会だより、あるいはほかの市に関連する広報誌、これらとあわせて発行、編集できないかという点でございますが、いわゆる市報は、月2回の発行でございます。各課からのお知らせなども含めて、一応原稿の締め切りを定めて、職員が編集、校正をしております。月2回ということで、ほとんど市報の発行に、もちろん取材等もありますけれども、市報の発行、

編集作業に従事している場面がほとんどでございます。こういったことで、作業員のいわゆる習熟が条件でありますので、年間の発行の部数の多い、あるいは回数の場合は、確かに効果は出てきているというふうに思います。ちなみに、今年度、長井市の市報の1ページ当たりの契約単価でございますが、予算措置では2円9銭の予算措置をさせていただきましたが、実際、入札において1ページ当たり88銭で入札、落札をしております。約4割の印刷費で経費が捻出できたということで、昨日議決いただきましたが、補正予算で300万円ほど印刷費を抽出して減額をさせていただきました。こういった面で効果が出ているというふうに思います。

ただし、議会だよりの場合は、年間4回、さらに議会だよりは議員の方みずから編集、校正していらっしゃいますので、そういった意味で、この機器をどの程度まで習熟されるかということ。それから、研修講習を受けなければなりませんので、そういった機会が議員の皆さんにどの程度、日程的にできますか、こういったことがありますので、今後十分に事務局とも協議をさせていただいて、お使いをいただくことは可能かと思っておりますけれども、職員が講師として議員の皆様方にご指導申し上げる時間は、ちょっととれるかどうかわかりませんので、今後、十分にひとつ事務局と協議をさせていただいて、検討してまいりたいというふうに思います。

以上でございます。

鈴木良雄議長 竹田辰雄教育長。

竹田辰雄教育長 ご質問にお答えしたいと思います。

このたびの条例制定の趣旨でございますが、旧郡役所の修復工事が終了いたしますと、市民の皆様の利用に供することができるようになりますので、その設置及び管理に必要な事

項を定めるものでございます。

また、文教の杜は、A区、B区と分かれておりますけれども、全体を一体的に運営するために、旧郡役所にかかわる部分を盛り込んで、全体として整合性がとれるようにするものでございます。

ご質問ありました、市民の利用に条例制定することによって不都合が生じないかということでございますが、設置条例の第1条に、藤原議員の方からもご指摘ございましたように、文化財の保護活用、芸術文化の振興、魅力ある活力に満ちた地域づくりという、三つの目的が示されておりますので、この最後の目的に沿って地域づくり、地域おこしのイベントなどにも幅広くご利用いただいているのではないかと、そんなふうに考えているところで

それから、利用時間の方も、今回提示しました条例の改正案の方には、資料としてはついておりませんが、施行規則の第2条に、必要な場合には延長しても利用することができるというふうになっておりますので、一応、文教の杜の職員の勤務時間等にあわせて、4時半までというふうにならざるを得ないかと、そんなふうに思っているところで、現段階では、どんな内容で、どういう形のご利用が出てくるのか、見通しが立たないところがございます。この後も懇談会の方を継続してもらえたいというふうになっておりますので、利用の実態とか、それから懇談会でのご意見とか、そういうものを全部受けとめまして、必要が出た場合には、また改正ということで対応していきたいと思っております。

以上でございます。

鈴木良雄議長 浅野敏明建設課長。

浅野敏明建設課長 私の方からは、「美し国置

賜」創造事業の内容でお答え申し上げたいと思います。

この事業は、山形県が進めておりますアルカディア街道復興計画の一環で、置賜総合支庁独自の事業として「美し国置賜」創造事業が創設されまして、美しい置賜づくりを具現化するため、景観整備を支援する事業として採択になったものでございます。

これは郡役所として国内最古と言われている旧西置賜郡役所の修復工事が今年度で完成することによりまして、それにふさわしい周辺の景観も備わっていかねばならないということで事業化に結びついたと思っております。

現在進めております町中散策やフットパスのルートとしても、また、隣接しまして都市計画公園として定めていますので、公園としての整備も含めまして、周辺の景観整備を進めていきたいと思っております。

+ このたび、置賜総合支庁建設部より支援をいただきまして、周辺の整備構想を策定するためのワークショップ開催などの経費として補助していただいたものでございます。

今後は、16年度に策定予定の周辺整備構想を土台にしまして、それを具現化するため、ハード面においてもご支援いただけるよう、引き続き置賜総合支庁の方に要望していきたいと思っております。単年度で整備は完成することはちょっと難しいかと思えますので、ワークショップにつきましても具現化するため、引き続き17年、18年度についても継続して検討していきたいというふうに考えております。よろしく申し上げます。

鈴木良雄議長 1番、我妻 昇議員。

1番 我妻 昇議員 ありがとうございます。残り30分もあります。非常に有意義に使えるなと思っております。

まず、商工観光課長のご努力には、本当に頭

の下がるところでございます。まだまだ残されているところもありますし、今後もガソリンスタンドなんかにはお願いしていくということで、本当にありがとうございます。これに刺激されて、ほかの課、もしくは市長、もしくは議員が、また違う行動を起こすことを願っておりますけれども、あのとき9月議会には、私はほかにも質問しました。そのときは総務課長でしたけれども、看板全体のことです。あれは本当は商工観光課長に聞くべきだったかと、今、思っているのですけれども、例えば久保の桜に行く看板ですとか、文教の社に行く看板ですとか、レインボープランの施設に行く看板というようなものがわかりづらいうようなことも、あのとき指摘したと思っておりますが、ちょっとこのこととは関係ないかもしれませんが、商工観光課としてそのような看板のことなんかを、今後どうしていくというような話がありますか。

鈴木良雄議長 那須宗一商工観光課長。

那須宗一商工観光課長 お答え申し上げます。

私どもが所管しております観光の看板のうち、特に桜とかあやめ、つつじといった、そのお祭りの期間だけにつける看板について、確かに議員おっしゃるとおり、ちょっとわかりにくいというふうなご指摘をちょうだいしたことは事実でございます。

桜につきまして、特に短期間に多くの方がいらっしゃるということで、久保の桜から最上川の千本桜、大明神桜と行っていただくわけですが、なかなか要所、要所がわかりにくいという指摘もここ数年いただいております。その都度関係者で会議を持って、必要な箇所は検討いたしまして、設置しているわけですが、もう少し統一したデザインの看板にするとかというふうな工夫があれば、もっとわかりやすいのかなというふうにも考えております。お金の話をしたら大変恐縮なんですけど、

予算との兼ね合いも持ちながら、あと、看板とあわせて交通指導といいますが、交通案内などの面でも充実しながら対応してまいりたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

鈴木良雄議長 1番、我妻 昇議員。

1番 我妻 昇議員 ぜひ看板の方も、常設の看板も、そのときの短期の看板も含めて、コンビニ、ガソリンスタンドの次はそっちの方に取り組んでいただきたいなと。工夫していただきたいなと思います。

あと、答弁の中に観光懇談会と町中散策の話が出ましたけれども、観光懇談会は2月6日にあったと。これは後々どういう動きをしていくのか、具体的な組織づくりをするのか、連絡会として設けるのか。また、町中散策のことでしたが、また復活してガイドを設けるのか、その辺もうちちょっとお聞きしたいと思います。

鈴木良雄議長 那須宗一商工観光課長。

那須宗一商工観光課長 お答え申し上げます。

第1点目の観光懇談会でございますが、先ほど申し上げましたとおり、観光に関するいろいろな団体の方々に集まっていただいて、まず第1回目はそれぞれ情報交換なり、長井の観光について考えておられることを出させていただいたところでございます。

今後については、もう少し部会みたいな形にするか、専門委員会といいますが、そういった形にするのか、今までと同じような方々に全員集まってしていただくのがいいのか。今ちょっと事務局でいいますか、商工観光課の中で検討しているところでございます。

このようないろいろな立場の方に集まっていた観光の懇談会については、今後も開催して、よりよい長井の観光づくりに努めてまいりたいというふうに考えているところで

ございます。

町中散策ガイドでございますが、これにつきましては、実は補助事業で実施したいというふうな考え方を持っておりましたが、ちょっと予算的な部分で難しかったということもございまして、この部分については観光ボランティアガイドの方々や、その他観光の関係の団体の方々にご協力をいただきながら、やはり引き続き実施していきたいというふうに考えておりますので、ぜひご協力を賜ればというふうに思っているところでございます。

鈴木良雄議長 1番、我妻 昇議員。

1番 我妻 昇議員 コンビニの話から観光全般のことになってしまいましたけれども、観光の問題、長井の問題点を象徴していることがちょっと私、気になったことがあったのですが、長井市の駅前の広報板というのですが、観光案内板が、何がかかっているかわからない看板があるのはご存じでしょうか。こちらから見ると、全然その看板は見えないのですが、長井駅をおりるとすぐ目立つところにあります。目立つところにある案内板なのに、何がかかっているか全然わからないと。それはどこの所有なのかというものを問い合わせても、どこの所有でもない、わからないというようなことでした。山鉄、観光協会、市、いろいろなところに問い合わせしましたが、どこのものかわからないと。これがまさしく長井の観光を象徴していることだと思っておりますので、商工観光課長、もちろんですけども、観光協会並びに商工会議所でしょうか。いろいろな諸団体、市民の活動もありましょう。連絡をとっていただいて、この観光懇談会というのは、非常にこれからそういう意味ではよくなっていくのかなと思いますので、これをぜひ伸ばしていただきたいと思います。

次に、市報のことですけれども、太田市では

こういう市報を出しております。これはB5版でしょうか。こういうふうカラーで見開き、もちろん裏表。中に、議会だよりが併設というか、一緒になっています。これを月3回、議会だよりはもちろん年に4回ですけれども、こういったことをしております。

せっかく年間300万円も浮いたわけですから、カラーにはできませんか、総務課長。

鈴木良雄議長 新野義憲総務課長。

新野義憲総務課長 長井市の市報の場合、今のところカラーにはしてありませんが、以前はしておいた時代もありますけれども、やはり経費的には倍以上かかるかと思えます。あるいは、カラーですともっとかかると思えます。正直なところ、二色刷りでも1.5倍ぐらいはかかりますので、カラーになりますと、恐らく倍、それ以上にかかるかと思えますので、今のところ財政的な事情も含めまして、ちょっと難しいというふうに判断をしております。

鈴木良雄議長 1番、我妻 昇議員。

1番 我妻 昇議員 そうだと思いましたがけれども、カラーだとやはり見てくれると思うのですね。何も300万円も浮いたというと、ちょっと語弊があるのですけれども、大分経費を削減したわけですから、それに使ってもいいような気が私はするのです。

こういう大きさにすると、小さい版よりも効率的に物事を書けると思えます。小さい版だと、次のページに書かなくてはいけないと。見開きが少ないとかあると思えます。大きい版だと、よりページ数が少ないし、あと、印刷費も、そんな2倍もかかるのでしょうかね。小さい版に比べれば、そんなに1枚ページ、ページなんかそんなんでもないかなと。ページ数も減りますし、あと議会だよりと併設する。あとほかにも何かあるでしょうか。太田市は社協だよりというものも一緒にしているようです。長井市にもそういうたよりがある

のでしょうか。そういうのと一緒にすることによって、カラーにする分の経費は浮いて、より見やすいものになるのではないかなと。市報を月に2回発行していらっしゃいますけれども、1日号の多くは、何冊も来ますね。議会だよりも来たり、市報も来て、そのほかにも来たり、いろいろなものが来てしまいます。そうすると、やはり見ただけでも、ぐるっと。まず市報だけは目を通そうと。議会だよりは後にしようかと。結局、後回しにされてしまう可能性もあると。1冊だと、読みやすいし、カラーだし、大きいしということで、中に議会だよりが入っていれば、そのまま読んでしまうということもあると思えますので、せっかく浮いた金額もありますし、あと、そんなに私は2倍もかかるとは思いません。もうちょっと検討していく価値はあるのではないかなと思えます。1冊にまとめるのも検討する価値はあると思えます。いかがですか、総務課長。

鈴木良雄議長 新野義憲総務課長。

新野義憲総務課長 関係する部署におきまして、今、議員の方からおっしゃられました内容につきまして協議をして、16年度になりますけれども、協議をしながら進めてまいりような体制をつくっていきたいというふうに思っております。

なお、県内でも一部議会だよりなどとあわせて発行している市などもありますから、これらもひとつ参考にさせていただいて、調査をさせていただいて、取り組むような形で検討させていただきたいと思えます。

鈴木良雄議長 1番、我妻 昇議員。

1番 我妻 昇議員 私も議会だより編集の副委員長ですので、先ほどの使いこなせるかということも問題にはあるかと思えますが、チャレンジしてみたいなと思えますので、ぜひ、いろいろな面から見て、本当にそんなにお金

がかかるのか。ページ数が少なくなったら、実はそんなんでもなかったというようなこともあるわけですから、私も、委員長もいらっしやいます。一緒にパソコンというのですか、ソフトを使いこなせるかどうか、やってみましょう。

そもそも、契約をするときに5年リースという契約をなさっていますけれども、メコムさん1社しかこのソフトを扱っていないということだから、1社との随意契約ということでしたけれども、このソフトはそうでしょうけれども、DTPシステムというシステムは、ほかにもいろいろなソフトがあると思いますよ。だから、このソフトにするからメコム1社だったと。それはわかりますけれども、ほかのソフトも見積ったり、いろいろなところに問い合わせをしたのでしょうか。

鈴木良雄議長 新野義憲総務課長。

新野義憲総務課長 見積り額につきましては、5カ年の見積りを出していただいておりますが、契約は単年度ごとでございます。予算的にも単年度でございますので、単年度で契約をさせていただきます。

先ほども申し上げましたが、メコムさんのほかにこういったDTPシステムを導入している会社はもちろんあるわけですが、いわゆる認定のインストラクター、指導員を配置するのが県内ではメコムさんだけです。今回メコムさんに随契をさせていただいたという内容でございます。

鈴木良雄議長 1番、我妻 昇議員。

1番 我妻 昇議員 ということは、いろいろなところに問い合わせしたが、これしかなかったということですね。私も直接聞いていないからですが、市内にもパソコンなり事務機なり、いろいろなソフトを扱っている業者さんがいるかと思えます。そういうところにも聞いたということでしょうから、仕方

がなかったのでしょうか。ただ、5年リースで300万円、これリースということは5年後には皆持っていかれるということでしょう。自分のものというか、市のものにはならないということでしょうか。

鈴木良雄議長 新野義憲総務課長。

新野義憲総務課長 あくまでもリースでございますので、そのとおりでございます。

鈴木良雄議長 1番、我妻 昇議員。

1番 我妻 昇議員 非常にもったいないと思います。内訳を見ても、非常に高価な物を定価ですべてリース契約をしているようです。非常に高いと思います。もったいないと単純に思います。それを使いこなせるのがそこしかないんだというようなことで、道が一つしかないという悲しい答えでしたけれども、もっともっと安く契約できたのではないかなと。また、リース契約ということは、決して自分の物ではないわけですから、こんなお金というか契約をして、高額なお金を払って、最終的に自分の物でないというのは、非常に悲しいものだなと思います。ぜひ、もうちょっと工夫すればできたのではないのでしょうか。私は、ちょっとまだそこら辺の知識はありませんけれども、もっともっと知識ある人に聞いて、私も私なりに勉強したいと思いますけれども、ぜひ、それ一つしか道がないなんていうことは、どうもないような気がします。いろいろな道を探っていただきたいと思えます。いかがですか。

鈴木良雄議長 新野義憲総務課長。

新野義憲総務課長 こうした機器の開発も、いわゆる日進月歩でございます。毎年新しくソフト開発が出ているわけでございますので、機器の導入については十分に検討させていただいて、いわゆる購入した方が得か、あるいはリースでいった方が得か、これらについても検討させていただきたいと思えます。

+

鈴木良雄議長 1番、我妻 昇議員。

1番 我妻 昇議員 続いて封筒のことに移ります。

太田市では、こういった封筒の多分裏だと思っ
たのですが、現物がなかったんですね、数社
の広告を載せていると思います。そこには、
多分この封筒の印刷代は、地元企業の広告料
によって賄われていますというような、例え
ばそんなことが書いているのではないでしょ
うか。そういうことをすれば、印刷費はかか
らないはもとより、市内企業との連携、また
は市外、県外、全国の人へのPRにもなる
ということですので、しかも、再生紙なんか使
えば、どんどん使ってもいいと思います。こ
れ使えば使うほど広告になるわけですから。
今はなるべく使わないように使わないように。
私、これ商工観光課長からもらったやつは、
県の封筒を使い回ししていらっしゃいます。
こういう努力をして、1枚でも使わないよ
うというのが現状でしょう。しかし、私の提
案したことが実現すれば、なるべく使うよ
うになるのではないのでしょうか。使えばそれ
だけ広告を掲載している企業のためにもなり、
市のためにもなり、ほかの市町村でこのよ
うのをもらった場合、それを使い回してくれ
れば、広告がどんどんどんどん一人歩きす
るというようなことになるとは思います。市長、
いかがでしょうか。

鈴木良雄議長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 それは広告が数が多く出回れば、
その方が効果があると思いますが、もう一つ
は、やはり経費削減ということで、むだな紙
を使わないというのがISOの一つのあれで
すから、その広告について、やはりどうい
うものなのか、裏側なのか、私も見たことな
いから、やはりそれは検討させていただき
たいと思います。

鈴木良雄議長 1番、我妻 昇議員。

1番 我妻 昇議員 ISOではなるべく使わ
ないようにということでしょう。経費削減と
いう意味で結構です。ぜひすぐにでも検討し
ていただいて、私、取り寄せてきますし、も
ちろん議会事務局なり、総務課とかでも取り
寄せられるのでしょうけれども、私なりに
も、もっとほかの市町村でもやっていないか勉強
して、もっと具体的に提案をしたいと思いま
す。市でもぜひ取り組んでまいりたいと思
いますが、市長、これはどこの課が担当する
と思いますか。

鈴木良雄議長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 財政課のようです。

鈴木良雄議長 1番、我妻 昇議員。

1番 我妻 昇議員 財政課長、ぜひ私も、後
日まとめて提案をしたいと思っております。早
速取りかかっていたきたいと思っております。

それでは、次の質問にまいります。最後の旧
郡役所のことですけれども、この間の懇談会
では、いろいろな発言が出たと思えます。先
ほど藤原民夫議員のお話にも出てまいりまし
た。さまざまな地元のイベントや観光という
意味でも、もちろんさっきの時間のこと、ま
たは文化的、芸術的という欄の括弧書きに、
販売目的では営利、宣伝目的は利用できない
というような括弧書きがあったかと思いま
すが、営利というのはどこまでが営利で、ど
こまでが非営利なのか。地元のイベント、こ
んにやくを売るのも営利なのか、観光物産的
なものも営利にあたるのかどうなのか、その
辺はいかがですか。

鈴木良雄議長 竹田辰雄教育長。

竹田辰雄教育長 旧郡役所の場合だけでなく、
例えば生涯学習プラザなんかも、国民文化祭
のときには、遠くからおいでになった方々に
いろいろな、宣伝も兼ねてですけれども、物
品販売ということで、市内の業者の方にお願
いして、そのイベントと一緒に参加していた

だくような形での物品販売をしてございます。それと同じように、地域でさまざま催し物をするときに、そういった形でできるのではないかというふうに思っております。

ただ、ここの括弧書きは、そういったものと全然関係なく、全く個人の業者が、自分の家で店を開いているような形であそこを使ってやるというような形では、それは使わせないようにした方がいいのではないかという考え方でございます。地域でイベントをやるときに、こんにゃくを売ったり、あるいはいろいろな生鮮食品を販売したりということは、それはやはり営利目的ということではなくて、その事業の使命そのものを達成するという目的が別にあるわけですね。そして、販売というのは、その副次的なものというような、そういう考え方でご利用いただいた方がいいのではないかと、そんなふうに考えております。

鈴木良雄議長 1番、我妻 昇議員。

1番 我妻 昇議員 ありがとうございます。

ということは、地元のさまざまなイベントに活用できるということですが、こんなこと言っているのでしょうか。例えば、教育長が今度かわられたとか、文化生涯学習課長がかわられたとあって、その次の方もそういう見解になるのでしょうか。その辺大丈夫でしょうか。

鈴木良雄議長 竹田辰雄教育長。

竹田辰雄教育長 使用料の減免なんかも出てくると思います。利用される団体によってですね。そういったことから、内規的なものも必要になってくると思いますので、そういったところにも付記しておきまして、人がかわってもそれはずっと行政の継続性ということからいっても続くように、一貫性を持って継続できるように対応してまいりたいと思います。

鈴木良雄議長 1番、我妻 昇議員。

1番 我妻 昇議員 ありがとうございます。

ぜひそういう申し合わせというか、内規とい

うものを継いでいってほしいと思います。地元の集まりには、北部開発協議会なんかもあったり、まちを超えた、旧宮地区なんですかね。宮地区という意味でしょうか、北部開発協議会というのがありますが、そういうところにもぜひ話をさせていただいて、一部いらっしゃるかと思えますけれども、まちを超えた行事ですとか、寺子屋というような話が先ほどありました。十日町の公民館では、ボランティアで小学生の宿題を見てあげる公民館学校なんてボランティアでしている方もいらっしゃるのですけれども、そういうことを公民館ではなく旧郡役所を利用してすれば、まちを超えたいろいろな事業といえますか、ボランティアなりさまざまなことができるかと思えます。ぜひその運営の今の集まりだけではなくて、もっと広くお知らせをしていただきたいなと思っております。

あと、紹介ですけれども、例えば宮城県岩出山町というところは、多分これは文教の柱に匹敵するぐらいの旧家だと思います。非常にきれいな黒塗りの板でびかびか光っていて、非常にいいところです。ここは地元のお母様方が「お帰りなさい、ふるさとへ」というようなことで、地元の料理をつくって、お客さんをもてなしているというような施設。あと、こちらは岐阜県郡上八幡の、それも旧役所です、郡役所というのですかね。どこかのまちの役場だったというようなところ、非常に趣のある建物ですけれども、それも国の登録文化財になっているということですね。そこでも常に常設で食べ物なりお土産を地元の方が運営して、これは財団法人というふうにして、振興公社にしているのですね。地元の方がほとんどで、お母様方や若い方も含めて頑張っていらっしゃるというようなこともありますので、なかなかすぐにはそういう形にはならないと思いますが、そういう地元の方々

+

と話をしていく上で、こういう話が出てくるかと思しますので、ぜひ柔らかく考えていただいて、実現して、皆さんに愛される場になってほしいなと思います。

建設課長、「美し国置賜」創造事業というのは、単年度で終わらせるのではなくて、継続していきたいと、そして作り上げていきたいということですが、教育委員会と建設課と、フットパスは企画調整課ですよね。または観光という意味では、商工観光課になりますが、そういった横の連絡というのはとらないと、事業費がばらばらですから、下手をすればばらばらなものができ上がってしまうのではないかと心配されますが、その横連絡というのは、どうやってとっていくのでしょうか。

鈴木良雄議長 浅野敏明建設課長。

浅野敏明建設課長 お答え申し上げます。

整備構想の検討は、隣接する都市公園の管理者という関係で、建設課が取りまとめを行いますが、関連ある文化生涯学習課を初め、商工観光課、企画調整課と調整を図りまして、整備構想を策定していきたいというふうに思っております。

具体的には、フットパスの中に各担当課から入っていただいたり、アドバイザーとして入っていただいたり、ぜひ話の内容もわかる形で調整を図っていきたいというふうに考えておりますので、ぜひご協力をお願いしたいと思います。

鈴木良雄議長 1番、我妻 昇議員。

1番 我妻 昇議員 フットパスが中心的な存在になるということですよ。そうすると、教育長もそうですか、同じ質問で、横の連絡はどうとっていくのか。だれが先導役というのですかね、中心的に動くのはどこの課なのか、どなたなのかということは、どう思っていますか、教育長。

鈴木良雄議長 竹田辰雄教育長。

竹田辰雄教育長 お答えいたします。

市長の施政方針の中にも、16年度、旧郡役所の周辺環境の整備にかかわる計画立案に入るといふうにうたっておりますので、そしてまた、せっかく「美し国置賜」という構想もあるわけですので、別な組織をまたつくるといふことでなくて、そのところに教育委員会も入らせていただいて、屋上を重ねるといふような形でなくて、そこを中心に全体に行き渡るような構想を立てていきたいと、そんなふうに思っております。

鈴木良雄議長 1番、我妻 昇議員。

1番 我妻 昇議員 ありがとうございます。ぜひそうして横の連絡をとっていただきたいと思っております。

すみません、もう1回建設課長、その「美し国置賜」創造事業の中で、講師を呼んで、アドバイザーを呼んで何かするということでしたけれども、それは県からそういう指定があるのでしょうか。県から補助金をいただいている、25万円。その中の使い道なんかは指定されているから、こういうアドバイザーを6万4,000円を、3回で19万2,000円もアドバイザーに払うということですが、それは指定されているのでしょうか。

鈴木良雄議長 浅野敏明建設課長。

浅野敏明建設課長 お答えいたします。

こちらの方でも、どの方を講師として、アドバイザーとして招待していいか全く知識がありませんでしたので、県の方からご紹介をいただいたところです。

先ほど申しましたアルカディア街道復興推進置賜地域協議会の顧問でもあられます、東京大学教授の堀繁教授、この方をご紹介いただきまして、それをベースに旅費を算出したものでございます。よろしく申し上げます。

鈴木良雄議長 1番、我妻 昇議員。

1番 我妻 昇議員 残り1分ですけれども、これは指定されていないのだったら、もうちょっと工夫して、こんなに19万2,000円も講師代で、しかも旅費と合わせると22万円ぐらいになるのですよね。もう少し上手に使っていただきたいなど。いろいろなこれにかかわりたいと言っている方の中には、有名な講師を安く呼ぶことができると言っている方もいますので、こんな22万円もかけないで、決まっていなとすればかけないでいただきたいなと思います。最後にそれだけ答弁いただいて、終わります。

鈴木良雄議長 浅野敏明建設課長。

浅野敏明建設課長 お答えいたします。

ワークショップのまず組織づくりが先でございますので、その中でいろいろな講師についても、アドバイザーについてもその中で検討しまして、堀教授というふうに決まったわけではございませんので、今後検討してまいりたいと思います。

1番 我妻 昇議員 ありがとうございます。
以上です。

内谷重治議員の質問

鈴木良雄議長 次に、順位12番、議席番号2番、内谷重治議員。

(2番内谷重治議員登壇)(拍手)

2番 内谷重治議員 私、最後になりましたが、今定例会、市政一般に関する質問は、5会派の代表質問と二つの政党の政党質問、そして5人の個人質問という、ここ数年来では最も活発な議論が展開された一般質問であったと言えると思います。財政再建4年目、目黒市政2期目の、まさに正念場となる平成16年度の目黒市長の施政方針に対し、各

議員から質問項目も非常に多岐にわたり、改めて市政運営の厳しさ、難しさを感じさせられたところであります。

我が会派フォーラム21では、蒲生光男会長が代表質問に立ち、長井市の自立計画策定とその実践について、改革派自治体の事例を詳しく紹介しながら、総論としての立場から長井市行財政改革への多くの提言とその実践に対し、市長初め当局の考え方をただしてまいりました。残りの4人のメンバーで各論としての今後の財政展望や人事評価制度、子育て支援環境整備、学校安全管理体制、また、ただいまの市民の目線からの広報宣伝や市報、議会だより発行のアウトソーシング等々に提言してきたところであります。

しんがり、5番手として私は、フォーラム21の提案している行財政改革の柱の一つである、市役所業務の民間委託、アウトソーシングについて、行政パートナー、行政サポーターなど、NPO的団体。これは市民公益活動団体と言うべきだと思いますが、この協力なくして、市民にとって望ましい、そして行政側から見た望ましいアウトソーシングはできないとの判断から、その市民の行政参加の根幹をなすと考えられますまちづくり基本条例の制定について、現状での検討状況、基本方針、考え方を伺うものであります。

また、いよいよ来年3月に迫った合併特例法の期限内での市町村合併の現実的対応について、再度市長の見解をお伺いするとともに、財政再建5カ年計画後の長井市の将来ビジョン、これを行政改革の断行による行政のスリム化のみならず、長井は将来何で食っていくのかと、こういった視点も加えた、まさに「出るを制し、入るを図る」上杉鷹山公の改革のように、長井市自立計画を策定する視点が不可欠であると考えます。

以上、事前に通告してありますこの2点につ